

在宅医療薬理学論

[講義] 1年・2年 選択 15時間 1単位

【担当者名】○国分秀也（非）[kokubun@toyaku.ac.jp]
 塚本容子（デ）[yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

在宅療養患者における薬物療法について学修する。高度実践看護師としての在宅療養患者の薬物療法を効果的かつ安全に実施するために、基礎薬理学、アドヒアランスについて、在宅でよく使用する薬物の理解について、多職種連携を見定めた内容とする。

【学修目標】

1. 在宅療養患者における薬物療法と高度実践看護師の役割について理解できる
2. 在宅における薬物療法を効果的かつ安全に実施するために必要な基礎薬理学について理解できる
3. 在宅療養患者における痛みへの薬物療法を痛みのメカニズムを鑑みて理解できる
4. 在宅輸液療法のプロセスと実際を理解できる
5. 在宅における症状緩和への薬物療法を理解できる
6. 在宅医療における患者の症状マネジメント及びアドヒアランスを促進する支援を事例から考察する

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	在宅療養患者に薬物療法と看護師が果たす役割	1) 患者中心の在宅ケアモデル (Patients-centered Home Care Model) の概観 2) 在宅療養患者の薬物療法の位置づけと看護師の役割 3) 薬剤アドヒアランスの促進要因と障害要因	塚本
2	在宅療養患者への安全な薬物療法促進：多職種連携	1) 在宅医療における薬剤師の役割 2) 在宅療養患者の薬物管理上の課題	国分
3 4	在宅療養患者への効果的かつ安全な薬物療法促進：基礎薬理学	効果的かつ安全な薬物療法の実施及びアドヒアランスの必要性を理解するための基礎薬理学（薬物動態学・薬物力学）について	国分
5	在宅における痛みへの対応	痛みのある患者への疼痛マネジメント 1) それぞれの痛みの侵害受容 (nociception) ステージに対する薬物療法について 2) 痛みの種類別に対する薬物療法について 3) 在宅での痛みに対する薬物マネジメントの特徴（薬物のdelivery system、痛みがコントロールされないときの対応など）	国分
6	在宅輸液療法 (HIT: Home Infusion Therapy)	1) 在宅輸液療法に使用する血管アクセスデバイスについて 2) 在宅中心静脈栄養法と感染予防を含む安全な実施について 3) HIT実施までのプロセスと診療報酬について	塚本
7	在宅療養患者の症状緩和に用いる薬剤	1) 在宅における症状緩和モデルと薬物療法 2) 消化器症状（便秘・下痢など）を訴える患者の薬物療法 3) 呼吸困難を訴える患者の薬物療法 4) その他症状緩和に対する薬物療法	国分
8	在宅療養患者の薬物療法の実際	症状マネジメント及びアドヒアランス促進のための支援：Case-basedディスカッション	塚本

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・出席状況は評価方法に含めない
- ・課題レポート(50%)、授業への参加態度(50%)

【教科書】

その都度、提示する

【学修の準備】

単元に関連する文献を熟読し臨む。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。